

## MS&ADホールディングス 電話会議（2020年2月14日開催） 2019年度第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年2月14日に実施した決算説明電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。  
なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSA 生命：三井住友海上あいおい生命保険株式会社

MS Amlin：MS Amlin plc（現 MS Amlin Limited）

Q1： 台風15号の元受支払見込額の上方修正について業績に与える影響を教えてください。

A1： 元受支払見込額は支払単価の上昇を主因に増加していますが、再保険によるカバーが機能するため正味ベースの発生保険金への影響は基本的にありません。

SQ1：再保険の回収額が当初想定を上回ったことにより、来期の再保険コストはどの程度増加すると想定していますか。

SA1：来年度も財務健全性の向上と期間損益の安定のために再保険を適切に活用するという方針に変更はありません。現在、再保険会社と来年度の契約について交渉を進めている最中であることから、再保険コストの増加額に関する具体的な点な数字を申し上げることはできませんが、資本効率およびRORも考慮した上で、最も適切な再保険スキームを構築していきたいと考えています。

Q2：今回、キャットボンドから127億円の回収がありましたが、これは中間決算で公表した業績予想に入っていますか。

A2：業績予想に織り込んでいるものです。

Q3：MSとADそれぞれの復元保険料の金額と大口事故が業績予想の範囲内で推移しているのかについて教えてください。

A3：MSの復元保険料は、中間期で約50億円、第3四半期は累計で約110億円、ADの復元保険料は、中間期で約40億円、第3四半期は累計で約80億円です。  
大口事故のインカードロスは業績予想の範囲内で推移しています。

Q4：海外の自然災害ロスについて、第4四半期においてはどの程度見込んでいますか。

A4：アムリンの自然災害ロスの通期予想は170億円ですが、その範囲で全体として収まるとみています。

Q5：グループ修正利益は年間計画をほぼ第3四半期で達成している状況ですが、これをどのように評価すればよいでしょうか。責任準備金等の追加繰入等の影響を織込み、年間計画通りなのか、

もしくは上振れなのか、その点について教えてください。

A5： 第3四半期は有価証券売却益のタイミング等もあってグループ修正利益は想定を若干上回っていますが、今後の事業費の支出や一定のロスの発生をみていますので、通期については今のところ大きな見通しの変更はありません。

Q6： 第4四半期におけるグループ修正利益に影響を与える特殊要因は何でしょうか。

A6： 自然災害責任準備金の繰入負担 300 億円と、海外事業再編に伴う税効果の反映分として 300 億円を業績予想の前提として織り込んでいます。

Q7： MS Amlin の保険引受利益がこの3か月間で悪くなっていますが、収支改善の取組の状況を教えてください。

A7： 保険引受利益につきましては、第2四半期から第3四半期にかけてハリケーン・ドリアンの影響により押し下げられています。自然災害以外につきましては、過年度契約の備金積増は落ち着いており、収支改善の取組の効果が出ているとみています。一方、当年度契約のロスは複数の大口ロスの発生により年初の想定を上回っている状況です。

Q8： MS Amlin の利益進捗に関して、第3四半期累計で 86 億円と通期予想の 73 億円をすでに超過しています。第4四半期に当たる 10-12 月期において、保険引受の部分で自然災害や大口事故等、何か下振れる要素というのはあるのでしょうか。足元の状況を確認させてください。

A8： MS Amlin の最終着地は、第4四半期の決算を閉じておらずまだ流動的です。自然災害で特に大きいものは今のところ確認していません。第4四半期は為替の処理や組織再編に絡んで一定のコストを見込んでいますが、それらを含めて全体として業績予想水準を達成できるだろうとみております。

Q9： MS Amlin の業績見通しに関し、1月の料率改定の状況を踏まえて、2020年度以降のトップラインの見通しを教えてください。大口自然災害等が平準化すれば、利益に追加的な利益が期待できるのでしょうか。

A9： MS Amlin に関しては、再保険マーケットと同水準の料率引上げが出来ていると考えています。ボトムライン重視の取組みを推進しており、トップラインを大きく伸ばしていくというよりは、利益を確実に増やすよう取組んでいます。

SQ： MS Amlin の業績は横ばいと考えていたが、環境は良くなってきたという理解でよいですか。

SA： トップラインについては9月に不採算分野のポートフォリオの撤退も発表しており、トップラインの伸びはあまり見込んでいませんが、ボトムラインについては、これからまた損害率も着実に下がり、利益についてはしっかり出していけると考えています。

Q10： 新型肺炎の影響に関して教えてください。企業向けの利益保険等で影響が出てくる可能性があるのではないかとと思いますが、こういった経路で影響が出てきて、どのぐらいのインパクトがあり得るのか。影響が全然無いのであれば、それでも構わないのですが、見方を教えてください。

A10： 新型コロナウイルスの肺炎が保障の対象になっている商品としては、MSA 生命などで販売している医療保険、死亡保障の保険、収入保障保険、それから損害保険会社のほうで販売しております団体総合生活保障保険、海外旅行保険などがあります。現時点では国内では大きな感染拡大の状況には陥っておりませんし、業績への影響はないというふうに見ています。また、当社グループでは、新型インフルエンザの発生によるパンデミックが生じた場合を想定したリスクシナリオに戻づく財務健全性のテストを、毎年実施しております。その結果からも、もし、今後国内で感染が広がっていったとしても、弊社の財務健全性に与える影響は非常に軽微だろうと思っています。

以上